

■対談

the joy of eating

画期的な商品で
日々の食卓に
— the joy of eating —
「食べる喜び」を

生きる力の素「たんぱく質」で
食の領域を広げる



■日本ハム株式会社
Nipponham Group

大阪・梅田に本社を置く大手食品メーカー。1942年「徳島食肉加工場」として創業し、1963年現在の「日本ハム株式会社」に。戦後の食糧難に食肉を通して良質なたんぱく質を供給した同社は扱う食の領域拡大や海外への進出により発展。ライフスタイルの多様化に合わせた新しい食文化の提案やプロ野球球団の経営に携わる。2023年3月現在、国内食肉加工業界売上1位、国内の食肉市場全体のシェア約20%を占める。

井川 伸久 • 日本ハム株式会社 代表取締役社長
株式会社北海道日本ハムファイターズ 取締役オーナー

芝井 敬司 • 学校法人関西大学 理事長

食卓でお馴染みのハムやソーセージ、食肉、加工食品、乳製品や水産物などさまざまな「食」で、日本人のたんぱく質摂取量の約6%を供給するニッポンハムグループ。さらに、プロ野球球団や球場の運営を通して、食とスポーツを融合したエンターテインメントを提供し、地域社会の発展にも力を入れている。そのニッポンハムグループをけん引する井川伸久日本ハム株式会社代表取締役社長を芝井敬司理事長が訪ね、学生時代から現在に至るまでの足跡をたどりながら、食を中心に展開するさまざまな事業や関西大学への期待などをお聞きした。



学業やサークル活動に対して熱心に取り組んでいた学生時代の井川さん(写真・右)▶

◆「商売がしたい」と伸び盛りの食肉加工業界へ

芝井 関西大学法学部在学中はどのような学生生活を過ごされましたか。

井川 私は政治学科に在籍し、上林良一先生のゼミに所属していました。当時のゼミの仲間は今でも付き合いがあります。学業以外では、当時のやりだった、夏はテニス、冬はスキーを楽しむサークルを立ち上げて、関西大学以外の学生にも加わってもらって、一緒にツアーなどを企画していました。

芝井 日本ハム株式会社に入社されたきっかけは何でしょうか。
井川 就職活動を始めた当初は商社志望でした。しかし、就職活動を進めていくうちに、商品を製造し、販売することに関心が出てきました。それができる伸び盛りの業種は何か……あれこれ調べるうちに食肉加工業界を知り、日本ハム株式会社に入社を決めました。

芝井 入社後はどんなお仕事を担当されたのですか。
井川 当時の日本ハム株式会社は、私が入社する直前の1985年2月に新発売された「シャウエッセン」などの加工食品の製造、販売を担う加工事業本部と、皆さまの食卓に並ぶお肉を供給する食肉事業本部があり、私自身は、食肉事業本部の中でも、当時はあまり付加価値の高くなかった内臓などを加工して、商品化する部署に所属していました。そうするうちに、当時は市場ニーズが低く、安価だった鶏の手羽肉を主原料にした「チキチキボン」の開発に携わり、ブランディングの方法や宣伝を工夫して、戦略的に認知度を上げていくことに取り組みました。また、加工事業本部長時代には、弊社の看板商品である「シャウエッセン」の改革を進めてきました。シャウエッセンは単一ブランドとしてロングセラーとなり、拡大し続けてきましたが、それまでの慣例を破り、

カットしたシャウエッセンを具材に用いたピザを開発したり、チーズ入りやホットチリ味などのバリエーションを増やしたりするなど、これまでタブー視されていた領域にチャレンジしてきました。

その他には、レストランチェーンや回転寿司チェーンなどを顧客に持つ外食事業の担当役員として、新たな顧客開拓や、商品開発に携わってきました。外食事業はメニューが採用されない場合は、売上がゼロになります。その代わりに、大型商品が導入された時には非常に大きな実績を会社にもたすことができるダイナミックな仕事であり、こちらの事業においてもやりがいのある日々を過ごしてきました。



▲井川さんが開発に携わった「チキチキボン」は発売以来人気のロングセラー商品



芝井 敬司—しばい けいじ
 ■学校法人関西大学理事長。1956年大阪市生まれ。1978年京都大学文学部史学科(西洋史)卒業。1981年京都大学大学院文学研究科博士課程後期課程中途退学。1984年関西大学に着任。文学部長、副学長、学長を歴任。2020年から現職。独立行政法人大学改革支援・学位授与機構評議員。公益財団法人私立大学退職金財団評議員。一般社団法人大学スポーツ協会理事。公益財団法人大阪府スポーツ協会副会長・理事。

2025年に「ビジネスデータサイエンス学部(仮称)」の設置を構想しています。実際のデータを使い、そこからどんな発見があるか、何ができるかを追い求める教育を展開していこうとしています。



◆食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄

芝井 話は変わりますが、2023年3月、北海道日本ハムファイターズの新球場「ESCON FIELD HOKKAIDO」を核とした「北海道ボールパークFビレッジ」のオープンが大変話題になりましたね。非常にアイデアに溢れた挑戦だと感じました。

井川 私がオーナーを務めています。親会社とあまり関与しないのが、北海道日本ハムファイターズの特徴で、弊社からは社長、役員2人と若い社員が2人ほど出向しているだけです。球団には、野球をビジネスとして考えていきたいという人や新しいことに挑戦したい人が、球界だけではなく、商社、銀行、省庁などから集まってきました。なので、みんなめっちゃ積極的で、まさしくベンチャーの様相です。弊社としては、莫大な資金を投資したこともあり、コロナ禍の中、不安だらけでしたが、幸いなことに、オープン日の2023年3月30日はコロナ禍が落ち着き、良い結果になったと感じています。

芝井 プロ野球球団の経営に携わるきっかけは何でしょうか。

井川 戦前・戦中から戦後にかけて、日本人は栄養が不足しがちで、背も低く痩せていました。ところが、敗戦後、日本にきた進駐軍は背も高く、筋骨隆々。その差は何か。創業者の大社義規は、その差はたんぱく質不足にあると考え、戦災で焼失した弊社の前身「徳島食肉加工場」も戦後まもなく事業を再開しました。たくましい体作りには、栄養価の高い食事と適度な運動が必要だということで、大社はスポーツの重要性も理解していました。野球ファンだった大社は、たまたま同郷の香川県出身で野球選手・監督として活躍された三原脩さん(みはら すすむ)のご縁から、球団経営に携わることになりました。2024年は日本ハムファイターズとなって50周年の佳節です。「ESCON FIELD HOKKAIDO」では、さまざまなイベントを予定していますので、どうぞ楽しみにしてください。

◆挑戦を通じて成長する人財を育む企業風土づくり

芝井 母校関西大学は2023年10月11日に吹田市山田南に新しく「吹田みらいキャンパス」を開設しました。千里山キャンパス

から直線距離で2kmほどの新キャンパスに、国際学生寮や運動施設のほか、14番目の学部として、2025年4月にビジネスデータサイエンス学部(仮称)の設置を構想しています。

井川 それは素晴らしいことですね。社会経済活動や人々の行動によるデータをどう分析するか、そしてブランディングにどう活用していくのかは、どの業界でも最大の関心事の一つではないでしょうか。今はもうマス・マーケティングの時代ではありません。弊社としては、データを活用したマーケティングや商品開発ができる人財はとても魅力的で、期待は大きいですね。

芝井 学部名に「ビジネス」とあるのは、IT系エンジニアの育成がメインの教育目標ではないということを明示する意味があります。データサイエンスはツールの一つで、企業や自治体などから提供される実際のデータを使い、そこからどんな発見があるか、何ができるかを追い求める教育を展開していこうとしていて、私もそこでの学びに大いに期待しています。

井川 若い人々には大学卒業の段階ではまだ見えない可能性があります。弊社入社後に活躍できるかどうかは、人財と企業風土がフィットするかどうか大きいのではないのでしょうか。弊社は「従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する」をもう一つの企業理念としています。フィットすれば個々の人的資本は大きくなり、企業価値も高まっていくと考えています。弊社は挑戦する人財の育成をめざし、社員が挑戦しやすい企業風土づくりを心がけています。

芝井 最後に関大生にメッセージをお願いします。

井川 大切なのは柔軟性と機敏性、そしてやりきる力だという話を私はよくしています。いろいろな話に耳を傾け、吸収し、自身の考えをまとめる、認識が誤っていたら修正する、その繰り返しが柔軟性に繋がります。しかし、言葉では理解していても実際に行動が伴わなければ意味がないから、機敏性も重要です。そして、行動すると決めたら最後までやりきる。やりきらないと、失敗しても次の成長に繋がりません。どうか、自分で決めたことは最後までやりきることにこだわってほしいと思います。

大切なのは柔軟性と機敏性、そしてやりきる力です。行動すると決めたら最後までやりきる。やりきらないと、失敗しても次の成長に繋がりません。



井川 伸久—いかわ のぶひさ
 ■日本ハム株式会社代表取締役社長、株式会社北海道日本ハムファイターズ取締役オーナー。1961年大阪府生まれ。1985年関西大学法学部卒業。同年日本ハム株式会社入社。執行役員加工事業本部営業本部フードサービス事業部長、代表取締役副社長執行役員加工事業本部長、代表取締役副社長執行役員経営企画本部長を経て、2023年4月から現職。

話題の「ES CON FIELD HOKKAIDO」で日本ハム株式会社前田常務執行役員(左)、井川さん(中央)、株式会社北海道日本ハムファイターズ小村社長(右)と▼

